

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 3 部門第 2 区分
【発行日】 令和 5 年 3 月 10 日 (2023.3.10)

【国際公開番号】 WO2020/180865
【公表番号】 特表 2022-524325 (P2022-524325A)
【公表日】 令和 4 年 5 月 2 日 (2022.5.2)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2022-078
【出願番号】 特願 2021-552522 (P2021-552522)
【国際特許分類】

10

A 6 1 K 38/17 (2006.01)
A 6 1 P 25/00 (2006.01)
A 6 1 P 29/00 (2006.01)
A 6 1 P 27/06 (2006.01)
A 6 1 P 25/24 (2006.01)
A 6 1 P 27/02 (2006.01)
A 6 1 P 25/28 (2006.01)
A 6 1 P 25/16 (2006.01)
A 6 1 P 25/08 (2006.01)
A 6 1 P 43/00 (2006.01)

20

【F I】

A 6 1 K 38/17
A 6 1 P 25/00
A 6 1 P 29/00
A 6 1 P 27/06
A 6 1 P 25/24
A 6 1 P 27/02
A 6 1 P 25/28
A 6 1 P 25/16
A 6 1 P 25/08
A 6 1 P 43/00 1 1 1

30

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 3 月 2 日 (2023.3.2)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

40

対象における、神経炎症および神経変性を処置するならびに／または神経炎症および神経変性の発症もしくは進行のリスクを低減するための方法において使用するための医薬組成物であって、(i) HSP60 もしくは HSP27、もしくはその活性断片、および／または (ii) IGFBPL もしくはその活性断片のうちの 1 つまたは複数の治療有効量を含む、前記医薬組成物。

【請求項 2】

前記治療有効量が、前記対象において炎症および神経細胞死を低減するのに十分な量である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

50

H S P 6 0 の経鼻または皮下投与および／または I G F B P L の全身または眼球投与のために用いられる、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

I G F B P L の眼球投与が硝子体内注射を含む、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記対象が、非動脈炎性虚血性視神経症（N A I O N）、緑内障、自閉症、多発性硬化症、アルツハイマー病、パーキンソン病、虚血性網膜症、加齢黄斑変性症、発作、虚血性および外傷性視神経症、または糖尿病性網膜症を有する、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記対象の眼において炎症および神経死を低減する、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記対象が、自閉症、多発性硬化症、アルツハイマー病、パーキンソン病、または発作を有する、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記対象の脳において炎症および神経死を低減する、請求項 7 に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記組成物が I G F B P L を含む、請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記 H S P 6 0 および／または H S P 2 7 が経鼻投与用に製剤化されたものであり、前記 I G F B P L 1 が眼球、例えば、硝子体内投与用に製剤化されたものである、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記 H S P 6 0 および／または H S P 2 7 が経鼻または皮下投与用に製剤化されたものであり、前記 I G F B P L 1 が全身投与用に製剤化されたものである、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記 H S P 6 0 および／または H S P 2 7 が経鼻または皮下投与用に製剤化されたものであり、前記 I G F B P L 1 が経鼻投与用に製剤化されたものである、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記 H S P 6 0 および／または H S P 2 7 ならびに前記 I G F B P L 1 のうちの 1 つ、2 つまたは 3 つすべてが、経鼻または皮下投与用に単一組成物と一緒に製剤化されたものである、請求項 12 に記載の組成物。

【請求項 14】

対象における、神経炎症および神経変性を処置するならびに／または神経炎症および神経変性の発症もしくは進行のリスクを低減するための方法において使用するための医薬組成物であって、I G F B P L またはその活性断片を含む、前記医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

他の実施形態

本発明はその詳細な説明と併せて記載されてきたが、前述の説明は本発明の範囲を説明するために意図されており限定するものではないことは理解されるべきであり、本発明は添付の特許請求の範囲により限定される。他の態様、利点、および改変は以下の特許請求の範囲内にある。

10

20

30

40

50

以下に、本願の当初の特許請求の範囲に記載の発明を列挙する。

〔発明 1〕

神経炎症および神経変性を処置するならびに／または神経炎症および神経変性の発症もしくは進行のリスクを低減するための方法であって、（i）H S P 6 0もしくはH S P 2 7、もしくはその活性断片、および／または（i i）I G F B P Lもしくはその活性断片のうちの1つまたは複数の治療有効量を、それを必要とする対象に投与することを含む、前記方法。

〔発明 2〕

前記治療有効量が、前記対象において炎症および神経細胞死を低減するのに十分である、発明 1 に記載の方法。

〔発明 3〕

H S P 6 0 の経鼻または皮下投与およびI G F B P L の全身または眼球投与を含む、発明 1 または 2 に記載の方法。

〔発明 4〕

I G F B P L の眼球投与が硝子体内注射を含む、発明 3 に記載の方法。

〔発明 5〕

前記対象が、非動脈炎性虚血性視神経症（N A I O N）、緑内障、自閉症、多発性硬化症、アルツハイマー病、パーキンソン病、虚血性網膜症、加齢黄斑変性症、発作、虚血性および外傷性視神経症、または糖尿病性網膜症を有する、発明 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

〔発明 6〕

前記対象の眼において炎症および神経死を低減する、発明 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の方法。

〔発明 7〕

本明細書に記載される方法において使用するための、H S P 6 0 および／またはH S P 2 7 を含む組成物、ならびにI G F B P L 1 を含む組成物を含むキット。

〔発明 8〕

神経炎症および神経変性を処置するならびに／または神経炎症および神経変性の発症もしくは進行のリスクを低減する方法において使用するための、H S P 6 0 および／もしくはH S P 2 7 を含む組成物、ならびに／またはI G F B P L 1 を含む組成物。

〔発明 9〕

前記H S P 6 0 および／またはH S P 2 7 が経鼻投与用に製剤化され、前記I G F B P L 1 が眼球、例えば、硝子体内投与用に製剤化された、発明 7 に記載のキットまたは発明 8 に記載の使用のための組成物。

〔発明 1 0〕

前記H S P 6 0 および／またはH S P 2 7 が経鼻または皮下投与用に製剤化され、前記I G F B P L 1 が全身投与用に製剤化された、発明 7 に記載のキットまたは発明 8 に記載の使用のための組成物。

〔発明 1 1〕

前記H S P 6 0 および／またはH S P 2 7 が経鼻または皮下投与用に製剤化され、前記I G F B P L 1 が経鼻投与用に製剤化された、発明 7 に記載のキットまたは発明 8 に記載の使用のための組成物。

〔発明 1 2〕

前記H S P 6 0 および／またはH S P 2 7 ならびに前記I G F B P L 1 のうちの1つ、2つまたは3つすべてが、経鼻または皮下投与用に単一組成物と一緒に製剤化される、発明 1 1 に記載のキットまたは使用のための組成物。

10

20

30

40

50